

世界に羽ばたく451点

県美分館 崇城大卒業・修了展



「羽化」をテーマにした作品が並ぶ崇城大
芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展

18日、熊本市中央区

崇城大芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展が18日、熊本市中央区の熊本県立美術館分館で始まった。今年のテーマは「羽化—emergence」。大学でさまざまなことを吸収し、世界に羽ばたくこうとする学生たちが制作した絵画や立体、グラフィックなどが並ぶ。24日まで。

芸術学部美術学科とデザイン学科、大学院を今春卒業・修了する69人が451点を出品した。磯野真希さん（4年）の日本画は、光り輝くダイオウイカに寄り添う女性を描いた大作。「くじけそうな時、真っ暗な深海でひっそりと生きているダイオウイカの存在を思うと、私の悩み

はちっぽけだと感じられた」と作品に込めた思いを語る。

杉本泰三さん（4年）は、曇りの日の夕方に訪れた公園をモチーフに、4年間探究してきた油彩で生と死を表現した。「反省点もあるけれど、卒業後も絵を描き続けていこうという思いが強くなった気がします」と話した。

このほか、平和をテーマにデザインしたスニーカーや、オノマトペの可能性を探ろうと見出しに擬音を取り入れた新聞など、それぞれの視点で制作した作品がそろそろ。入場無料。

（澤本麻里子）